

河川計画上の課題（内水排除施設計画）

内水排除ポンプ容量の決定

【全体計画】

外水位・・・1 / 50、内水位・・・1 / 50の計画規模

合計25m³/sの内水排除ポンプが必要

(現在:末次P:9.9m³/s、上追子P:5.4m³/s 残り約10m³/sが必要)



必要ポンプ容量の検討(例)

- ・大橋川の主要洪水外水位データを用いて算出(橋南地区への必要性も含む)
- ・効果的なポンプの設置(段階施工とした場合)計画の検討 等

橋北地区内水排除ポンプの設置位置

1. 北田川水門位置

【利点】

H10～12年度に区画整理事業とあわせて用地買収済み

【問題点】

宍道湖から導水を行っており、塩水を朝酌川へ流すことに対して農業者の了解が得られにくい
(北田川水門も操作要領通りに操作できない)

水門より上流約800mまで暫定改修済みだが、それより上流は用地買収難航のため改修の見込みが立っていない

ポンプの機能を十分に発揮できない可能性がある



今後の検討内容(例)

・出水時の塩分濃度調査、解析や、非灌漑期に水門を開けて影響を確認 等

河川計画上の課題（内水排除ポンプ）

2. 田町川(向島川)

【利点】

直接大橋川へ排水するため、塩害問題が発生しない

【問題点】

計画が未策定であり、必要容量を排出できるよう準用河川田町川を含めた河川改修計画（朝酌川水系全体の流量配分見直しを含む）を検討した上で事業を実施しなければならない

3. 既設末次、上追子ポンプの排水能力増強

【利点】

既設施設規模の増強であり、塩害問題が発生しない

【問題点】

必要な用地の確保

ポンプ容量増に対応できるような河道改修の実施

河川計画上の課題（内水排除ポンプ）

4. 橋南(天神川)内水対策

【現状】

天神川は本川からの逆流を防止する施設がない

【問題点】

浸水被害を防止するため上・下流に逆流防止水門設置が不可欠(直轄)

上記水門操作のみでは不十分な場合、排水ポンプが必要

大橋川右岸に計画されている下水道雨水ポンプ場の配置計画との調整



今後の検討内容(例)

・ポンプ処理を含めた内水対策の検討

河川整備計画の策定

（今後20～30年の具体的な整備内容を決定）

国：大橋川

県：宍道湖東域（朝酌川流域を含む）

朝酌川が合流する大橋川の改修計画に県の河川改修計画は大きな影響を受ける

【現状】

朝酌川水系の改修・・・大橋川改修との調整により河床1m残しの暫定河床、未改修区間あり

内水排除ポンプ・・・**全体計画**上では残り10m³/sの容量が必要



今後の改修手順の検討（例）

- ・暫定改修済み区間の本改修実施
- ・計画容量の内水排除ポンプ設置
- ・暫定河床高に対応する容量の内水排除ポンプ設置 等

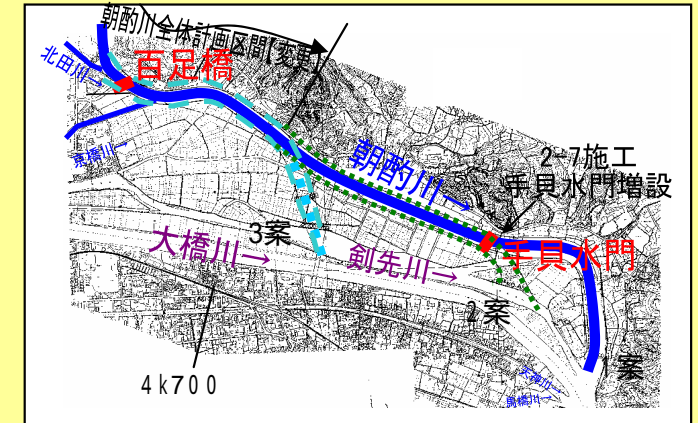
河川計画上の課題（その他）

朝酌川合流点位置及び大橋川河床高

【現状】

朝酌川合流点の位置・・・ショートカット案
(大橋川 4k600付近 右図3案)

朝酌川合流点の河床高・・・大橋川改修計画(H6年度当時)
にあわせてTP-5.00mで計画

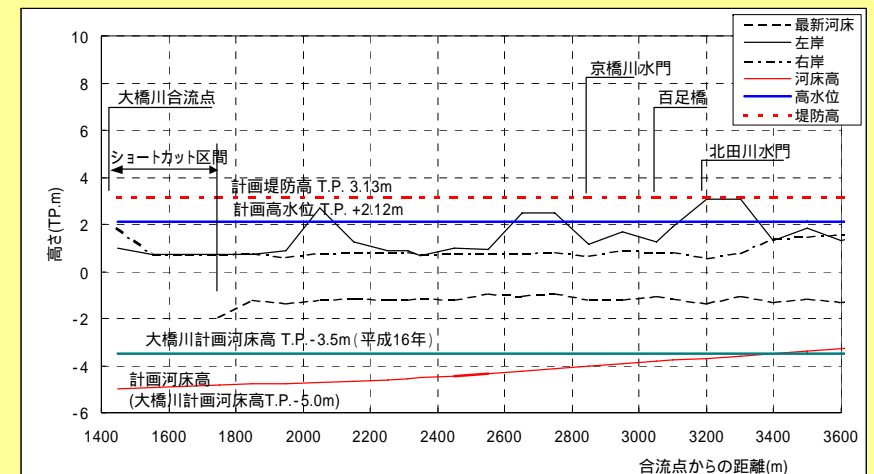


改修計画の大幅な見直し(例)

・平成16年度公表「大橋川改修の具体的内容」では
計画河床高はHP-3.50mであり、大幅な縦断計画・
横断計画の見直しが必要

(改修済み区間への影響も検証する必要がある)

・合流点位置を変更する場合、現在敷高TP-1.10m
である手貝水門の改築、または代替施設の検討 等



浸水被害が頻発する黒田地区における浸水対策

【これまでの対策】

中川の河川改修

内水排除ポンプ、逆流防止施設の設置と部分的な嵩上げの実施



【現状】

時間雨量10mm強で低平地の冠水、市道の通行止めが発生



今後の対応案

- ・総合的流域対策の一環として都市下水路事業を導入できないか？
- ・末次ポンプ場の容量 $9.9\text{m}^3/\text{s}$ の効果的な排水ができるような対策の検討

今後の検討事項（案）

- ・松江市街地内水解析（橋北・橋南地区）
- ・橋北地区塩分濃度調査、解析
- ・朝酌川河道計画（手貝水門改築検討含む）